

# 柴山地域プロジェクト(船央ブリッジタイプ)

## もうかる漁業創設支援事業実証結果報告

【事業実施者:但馬漁業協同組合】

実証期間:平成22年9月1日～平成25年8月31日

柴山地域の沖合底びき網漁業において、ズワイガニと魚類の双方を主対象とする船央ブリッジ型でハードオーニングを導入した125トン型実証船を用船し、省エネ船型、軸発電機等の採用による燃油消費量削減を図るとともに、高性能選別装置、船上凍結装置、循環ろ過装置を備えた常設活魚槽の導入による高鮮度魚類と、高品質ズワイガニの生産比率向上による収益性を改善することをねらいとした実証事業を行った。

### 実証項目

#### 【生産に関する事項】

①高品位船上凍結品の増産

②活ガニ艙利用に高度対応

③燃油消費量削減

#### 【流通・販売に関する事項】

①凍結製品の販路開拓

### 実証結果

#### 【生産に関する事項】

①実証船の凍結能力を日産5.8トン(従来は日産1.4～1.6トン)と大幅に増強した。実証船の凍結製品は3年間の平均で生産量136トン、生産額28百万円で、従来船のそれらに対して生産量で82.2%、生産額で44.8%多かった。主要凍結品(ハタハタ・ホタルイカ・エビ類)は生産量85.2トン、生産額24百万円で従来船の凍結製品生産量54.7トン、生産額18百万円に比して、生産量で55.8%、生産額で32.2%多かった。他方実証船の鮮魚製品生産量は93.6トンで従来船の84.5トンを上回っており、冷凍能力の増強は漁獲量に見合った各種製品の生産及び水揚げ金額の向上に有効であることが示唆された。

②実証船に循環ろ過装置と紫外線殺菌装置を備えた活魚水槽を装備し、活魚水槽内でのカニの傷、脚落ち等の防止に努めた。その結果、実証船の3年間の平均斃死率は3.7%(従来船4.2%)、活ガニ水揚げ量は84百万円(従来船71百万円)、活ガニ単価2,731円/kg(従来船2,664円/kg)で、これらの装置の導入が活ガニ生産の高度化に有効であることが示唆された。

③スリム船型、大口径プロペラ、軸発電システムの導入により実証船の燃油消費量は3年間平均で411klで(従来船に比して3.3%削減した)改革計画の目標値403klを8kl上回った。

これらの結果は、燃油消費量削減効果が所期のねらい通り有効に機能していることを示唆している。

#### 【流通・販売に関する事項】

①夏場の加工原料として需要の多いホタルイカ、サイズの小さいハタハタ及びニギス等の凍結製品を増産し、加工業者の需要掘り起こしを図った。

### 収支の状況について

上記のとおり、実証項目については一定の成果を得た。収益性の改善に関して、初年度の水揚げ量と水揚げ金額は266トン、176百万円で、改革計画の目標値(207トン、169百万円)を上回った。第2年度は水揚げ量286トン、水揚げ金額202百万円で改革の目標値を上回った。第3年度は水揚げ量305トン、水揚げ金額192百万円で改革計画の目標値を上回った。水揚げ量、水揚げ金額ともいずれの年度も改革計画の目標値を上回ったが、燃油及び資材等の価格の高騰により、償却前利益を確保できたのは第2年度のみであった。収益性改善の所期のねらいを実証するためには、導入した装備の有効利用を図り、活ガニ及び高鮮度凍結製品の生産増及び販路拡大により生産金額の向上を図る必要がある。